

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	言語表現演習		
英文授業科目名	Practice in Expressing Yourself		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	3(4)学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中島 義道		
居室	東1-605		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nakajima@hc.uec.ac.jp	なし。

<b>【主題および達成目標】</b>
(a) 主題：書くことと話すことの両方について、言語表現のスキルを学ぶ。 (b) 達成目標：ある程度複雑な内容を、正確に他者に伝えることができること。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
コミュニケーション論（できれば）。

<b>【教科書等】</b>
教科書：とくに指定しない。 参考書：そのつど指示する。

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

#### (a) 授業内容

この授業では、始めの3回程度で、日本語の言語表現における基本的題を説明する。その後7回程度、さまざまな場面における言語表現の例（善い例・悪い例）を提示して検討する。その後5回程度、さまざまな文章の要約、あらすじ、箇条書きなどを実践してもらう。最後の週には試験をする。

#### (b) 授業の進め方

とにかく多量の文章を読み（読んでもらい）、それについてあらゆる側面から議論する。学生諸君の多様な意見を尊重する。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

#### (a) 評価方法：

毎回、授業内容に関して「書いて」もらう。それが、すなわち出席になる。これがほぼ50%、期末試験が50%と考えてくれればいい。

#### (b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

「書くこと」の課題を出すこと（2回以上出さないと合格は難しい）。それに、とにかく授業中積極的に発言すること。黙り続けている学生は途中で聴講を断ることがある。逆に、このことをクリアしていれば、期末試験で半分程度の成績でも「可」とする。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

### 【学生へのメッセージ】

#### (例)

上にも書いたが、とにかく発言すること。言語表現演習なのだから、そして言語の基本は「話すこと」なのだから、それができない人、する意志のない人は参加しないでもらいたい。

### 【その他】

とくになし。